

修了生アンケート集計

2022年5月11日発送 6名(対象は2021年3月修了生)

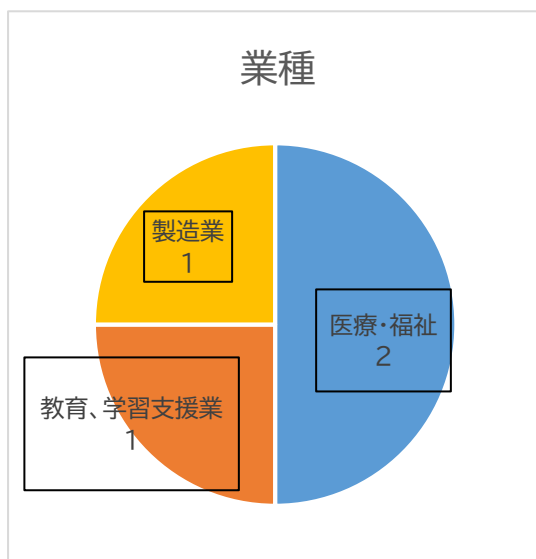
2022年6月17日締切

(人数)

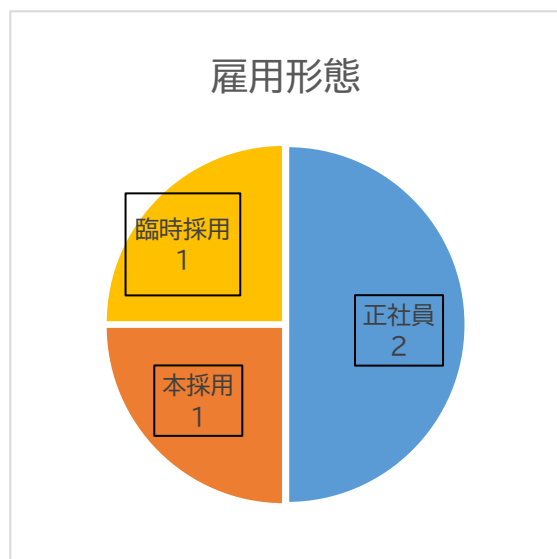
	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
障害心理学専攻	6	0	4	0	4	66.6%
計	6	0	4	0	4	66.6%

有効配達 6 先に対し回答件数 4 件 回答率 66.6%

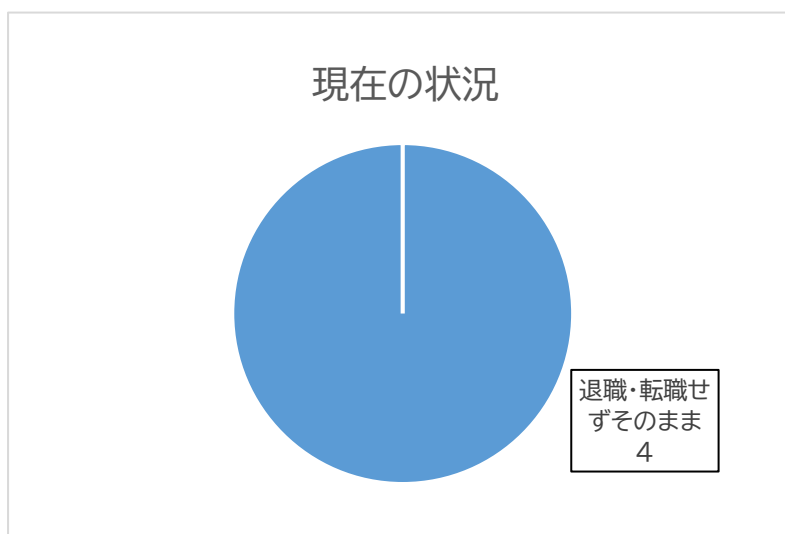
Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等

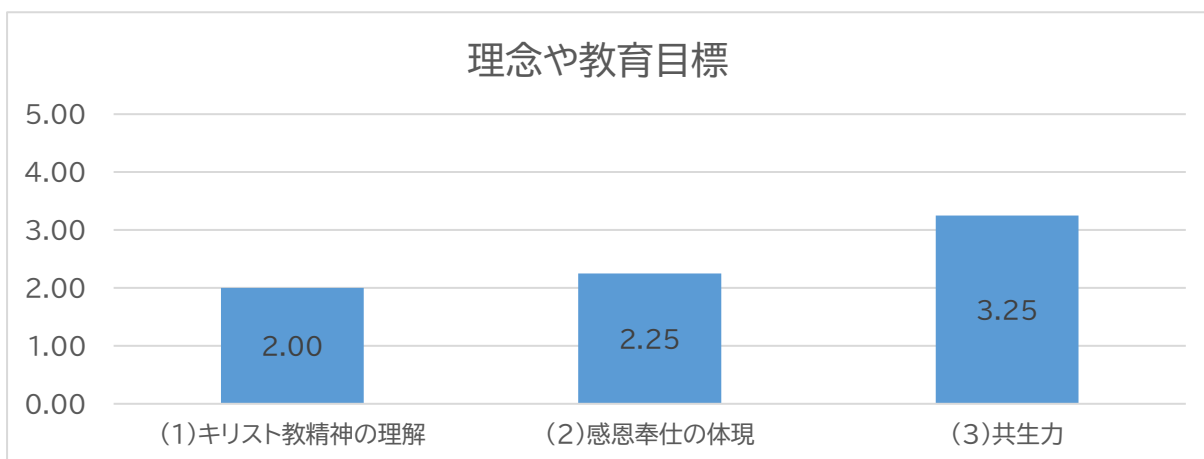


Q3-① 在籍時の学習成果がどのくらい身につけているか

- 5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている
 2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

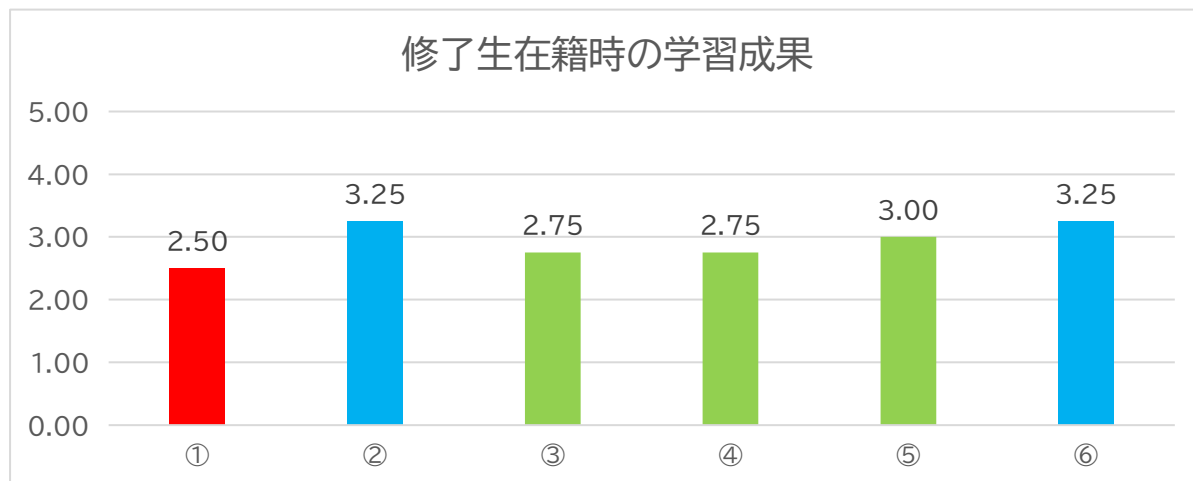
(1) 本学の理念や教育目標について

	項目	内容
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる

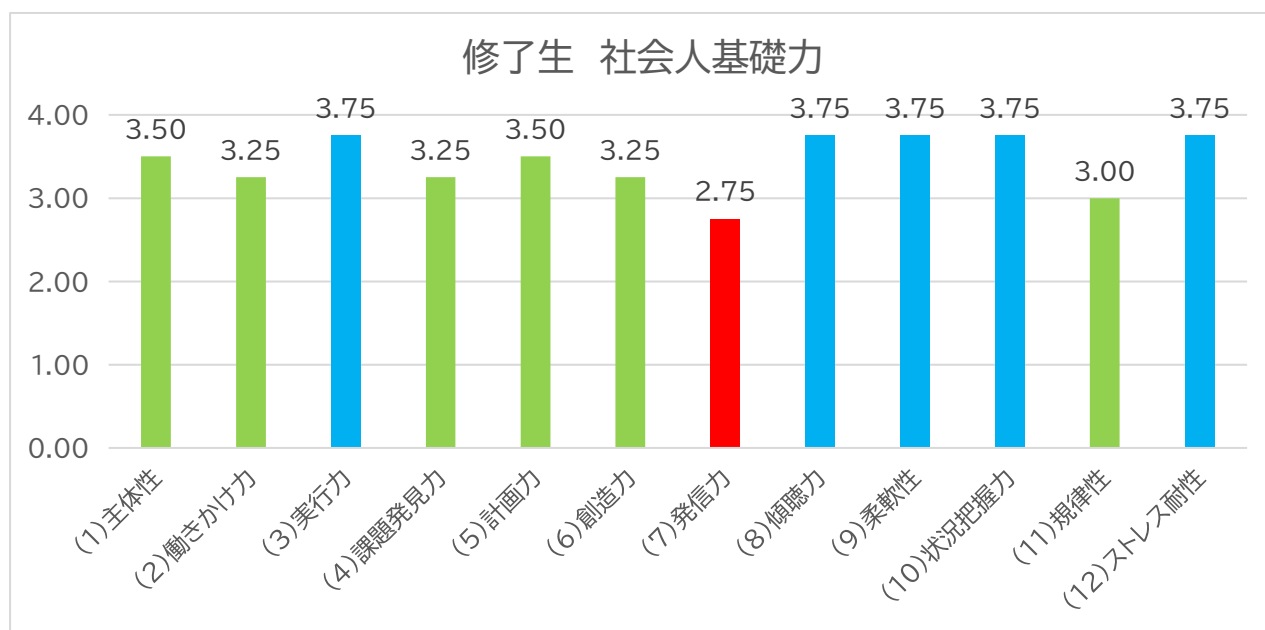


(2) 学習成果について

①	発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力
②	発達障害のある(あるいは疑いのある)幼児・児童・生徒の特別支援教育ができる能力
③	発達障害のある生徒の移行支援・就労支援ができる能力
④	学校現場で起きる不登校、いじめ、非行や神経症などの様々な問題に適切に対応するとともに、こうした問題の予防教育ができる能力
⑤	医療や福祉などの現場において、様々な情緒的問題を抱える人たちへの心理的支援ができる能力
⑥	学校をはじめとする障害者を包含する社会において、意識調査や啓発活動等ができる能力

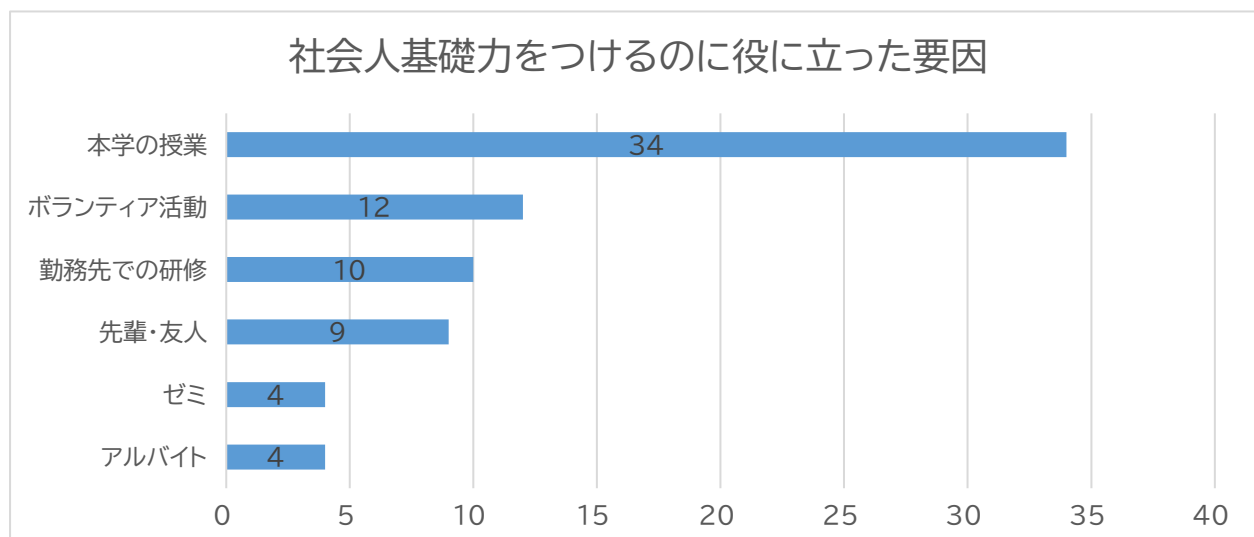


Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか



Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修



Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を書いてください

順位	項目
1	実行力 傾聴力 ストレス耐性

Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

・地域での学業を基盤にした活動、役割等について

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

- ・あります。上司や友人に相談しています。
- ・上司や友人
- ・上司や同僚
- ・自分で解決する、同僚に相談する

Q6 大学院時代に有意義だったと思う授業はありましたか

- ・どれも有意義だった。仕事とどこかしらで結びつくため、仕事を覚えやすい。
- ・心理療法特論、臨床心理学特論
- ・どの授業が有効とは決められない、すべての授業が有効でそれぞれの場面で助けになっている。
- ・科目名を正確に覚えておらず指導されていた先生のお名前を書きます。
古賀香代子先生の授業:現場で役立つ実践できる内容だった、自分のメンタルヘルスにも役だった
佐々木順二先生:文献の探し方など一から丁寧に指導下さいました。
和田先生、糟谷先生、菊池先生、熱心にご指導下さいました。他の先生方も。

Q7 今後新たにどのような教育が必要になってきますか

- ・県内在住者がほとんどなので地域のニーズにあった人材育成だと考えます。
- ・表現の幅を持たせるための語彙の増加
- ・先生方がレベルを下げて細かい指導をしていただき、学習不足の自分に対してすべての授業がありがたかったが、本来はもっと自分の力で行うべきであった、甘えすぎたと反省している。

Q8 本学全般にわたってのご意見はありませんか

- ・学生に寄り添った丁寧な指導が有り難かった
- ・満足している、行ってよかったと思っている

*修了生アンケートの所感

大学院では 2021 年度入学生までは社会人入学の学生の割合が高く、障害心理学領域になんらかの関わりのある分野で働いている学生も多い。2021 年 3 月修了生 6 名のうち回答を得た 4 名は全員仕事に就いており、そううち 3 名は関連分野である。これらを踏まえ、コメントしたい。

1. 在学時の学習成果がどのくらい身について活かされているか。

本学の理念や教育目標について、「キリスト教精神の理解」及び「感恩奉仕の体現」の学習成果は残念ながら低いものとなった。これらを伝達すべき時間がきちんと設定されていなかったことが大きな要因であろう。共生力については、様々な教科の中でも取り上げられる内容であるため、3.25 という評価が得られたと考える。また、大学院ディプロマポリシーにおいて 3.0 を超えたのは 3 項目のみであった。最も低い「発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力」は 2.5 であり、これは以前より継続した課題となっている。あとの 2 項目も含め、より臨床的実践力を求められる部分においてなんらかの学習成果を身につける困難さがあったと考える。

2. 社会人基礎力

現在身につけている社会人基礎力は「発信力」を除き、3.0 以上の成果で、かなりの力が身につけている。修了生が実社会で必要と思われる社会人基礎力第 1 位は「実行力」「傾聴力」「ストレス耐性」であり、身についた力の 1 位 3.75 の項目に含まれている。元々社会人が多い中では、当然の結果かもしれない。しかし、社会人基礎力を身に付けるのに役立った要因は「本学の授業」が他を大きく引き離して 1 位という結果を受けると、授業を通し社会人基礎力が更にブラッシュアップされたとも言えるだろう。一方、最も低い「発信力」については、アクティブラーニングを強化し発信する機会を多く設ける工夫が必要であろう。

3. 今後に向けて

本学の理念や教育目標については 2022 年度より、時間を設定し伝達を行う計画である。夜間のカリキュラムにおいて、実践力につながる内容になるよう常に意識して講義が行われている。心理検査についても、これまでの反省を踏まえ、演習を中心により実践的な内容を予定している。また、本年度開講の公認心理師カリキュラムでは実習・演習の時間が多く設定され、現場で求められる実践力を身につけることに重点が置かれている。いずれも、少人数で学生に寄り添った教育を行うことが可能であり、個々の学習の進捗状況に合わせた対応をしていきたい。更には回答にも寄せられた地域のニーズに合わせた、地域連携や多職種連携ができる人材育成を強化しているところである。